学びに新しい「挑戦」と「観点」を。 vol.14 2008年3月号

CHUOH 知っ得通信 TRY+ANGLE

2008年3月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2－15－5 http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/

Mail Seminar

# 感情の論理 vol.13「魔法の赤ペン」

さて、今回は「物語にして伝える」というテーマでお話します。テレビドラマや映画には「作り物」と分かっていても感動してしまいます。誰もがドラマの主人公に共鳴して感情移入をしてしまいます。「物語」にはそうした力があるのです。同じ「何か」を伝える場合でも、工夫や演出によって何倍もの威力を発揮させることが可能です。

販促品を例にとってみましょう。塾の中には、春期に名入れしたボールペンやノートを配るところも多いと思います。しかし、文房具をもらって喜ぶ子供は少ないものです。そんなものは捨てるほど持っていますし、何より必要ならば親が「お金」を出してくれます。

そこで、こんな物語を付けて配ってみてはいかがでしょう。

「この赤ボールペンは、ただの赤ボールペンじゃない。これから君がこのペンを使って勉強して、インクがなくなったら何本でも「換え芯」は塾から提供します。その空になった「換え芯」一本一本が君の成長の証しです。実際、先輩の中には1年で 20 本も使った人がいます。彼はその間に偏差値を 10 も伸ばして志望校に合格しました。次は君の番です。このペンで徹底的に勉強して大きく成長して下さい。」

こう言われた生徒は、もらった赤ペンで懸命に勉強する自分の姿を想像するのではないでしょうか。あたかも、自分がドラマの主人公になったかのような錯覚を起こすかもしれません。すると、どうなるか。塾生同士で競うように換え芯の消費競争が始まります。（もちろん、塾側が演出して促すのです。）

誰も、そのペンを粗末に扱ったり、無くしたりはしません。数あるペンの中から、「塾ペン」だけを選んで使用するようになります。塾でも学校でも…。

いつしか「ただのペン」が、「努力の証しのペン」に変貌します。学習意欲向上を促す大きな武器になります。

「やる気を出せ!」と連呼して生徒の「やる気」が出るのでしたら、塾経営は楽です。ほとんどの塾が永遠のテーマにしていることでしょう。この「赤ペン物語」は、一つの解決策を暗示しています。人は「形」に化学反応する（感動する）性質を持っているのです。卒塾時には、空になった換え芯をラッピングして、「○○君、努力の軌跡」としてプレゼントします。

数年すると、それが塾の伝統となり、評判となることは間違いありません。「○○塾の魔法の赤ペン」というキャッチフレーズと共に…。同じ演出はノートでも可能です。（赤ペンの方が安価で、効果は高いと思いますが。）

いずれにせよ、同じ予算を掛けるのでしたら、単なる「物」にも意味を持たせた方が数倍の効果があります。大袈裟に言うと、子供たちに「自分の人生」という物語の主人公だと強く認識させる効果です。それは、大きな予算を投入しなくても、「あなた」の演出ひとつで可能なのです。

塾には様々な物語が溢れています。

机や椅子の備品ひとつにも「あなたの気付かない物語」が存在しています。アンテナを立て、意識を高くすれば、自塾だけの物語が見えてくるはずです。

塾経営者は教務内容には熱心ですが、その周辺条件には無頓着な傾向があります。ぜひ、子供たち、保護者に感動を与える工夫、技術を磨いて下さい。

全国学習塾援護会 森 智勝

今月の気になるハナシ

# 増加する第３の入試

文部科学省は、募集定員の５０％までを、推薦・ＡＯ入試で埋めてよいことを認めています。それを最大限利用するかのように、全国の大学は推薦・ＡＯ入試を積極的に取り入れています。実際、推薦・ＡＯ入試による合格者は、年々増加しており、実入試の合格者を、推薦・ＡＯ入試合格者が上回る時代が来るかもしれません。

## １．AO 入試とは？

「ＡＯ入試」の『ＡＯ』とは、『Admissions Office( アドミッションズオフィス )』の略で、「入学審査事務局」という意味です。ＡＯは、教員・職員により構成されており、それぞれの学校・学科などの教育方針に基づいて、入学審査を行います。ＡＯ入試制度は、アメリカやヨーロッパのほとんどの大学で採用されている入試システムで、従来の入試方法とは異なり、学力を中心とした選抜ではありません。

日本では、１９９０年代に慶應義塾大学が開設したＳＦＣ( 湘南藤沢キャンパス ) において、ＡＯ( 自己推薦に似た入試形態 ) という新しい入試スタイルの募集形態から広がりました。慶應義塾大学ＳＦＣによれば、ＡＯ入試とは、以下２点からなります。

（１）一定の条件を満たしていれば自らの意思で自由に出願できる、推薦者不要の自由応募の公募制入試。

（２）筆記試験などの試験結果による一面的、画一的な能力評価ではなく、学業ならびに、学業以外の諸成果を筆記試験ではない方法により、多面的、総合的に評価し入学者を選考するもの。

## ２．AO 入試の実施方法は？

ＡＯ入試の基本は、一次書類選考と二次の面接が基本となります。書類選考は、学校からの調査書、推薦書、志望理由書などで行われます。志望理由書の書き方が、大きなポイントとなるようで、各大学によって程度の差はあるものの、学校活動や社会的活動に積極的に参加している生徒が好まれる傾向があります。

二次の面接は、基本は個人面接と集団面接です。ＡＯ入試の場合、集団面接で討論を行わせたり、面接の持ち時間の一部を使い、プレゼンテーションを行うことができるなど、面接の形態が多岐にわたり対応が難しくなっています。しかし、学校の求める人物像などは、ＨＰなどで明示している場合が多く、事前に確認して準備を進めることが、当然だと考えられます。一芸入試と混同される部分がありますが、書類・面接など多面的な評価によって合否を決定するため、どんなに一面に秀でていても、総合評価で不合格になる場合もあります。

募集時期は、おおむね９～１１月の日程で行われており、合格を勝ち取れば、その時点で入試は終わることになります。

## ３．AO 入試の抱える問題点とは？

多くの学生を確保するために行われているＡＯ入試ですが、生徒の学力低下という問題を、生み出しています。ＡＯ入試で合格すれば、１１月からは受験勉強から開放されます。他の受験生が、最後の追い込みをかける時期に、同程度の勉強をする必要がないため、両者に学力差が出るのは、当然ともいえます。

そのため、通常の入試で入学する生徒とは別に、「入学前教育」を実施している学校も少なくありません。「入学前教育」で十分に対処できていれば問題はありませんが、いざ授業が始まると、ついていけない場合も多く、根本的な解決には、なっていないようです。

とはいえ、学力試験ではわからない部分を評価して、合格者を選抜することが、ＡＯ入試の目的ではありますから、ある程度の学力差は、想定の範囲内であり、勉強についていけるかどうかは、学生個人が克服する問題ともいえます。

## ３．AO 入試の現実

ですが、少子化が進むなか、学校生き残りをかけ、学力を度外視した生徒獲得競争を進めている一面もありえます。ＡＯ入試で、これを続ければ、学校のランクは下がります。長期的に見れば、志願者の減少をまねく呼び水になるとも限りません。

ところで、皆さんご存知のとおり、私立は定員のみ合格させてはいません。国公立に逃げるのを前提で、多めの合格者をだし、定員を確保しています。これには、募集定員を確保できないと、国からの補助金が削減されるなど、大学存続にとって死活問題となる部分が定員確保には潜んでいるからです。

先にも書いたように、文科省は５０％までを推薦・ＡＯ入試の合格者で埋めることを認めています。この制限５０％ぎりぎりまで取り、定員を少しでも確保しやすい状況にもっていこうとしている学校も多くあります。附属校を持つ学校などは、定員の内訳をＡＯ入試５０％、実入試５０％にし、実入試の５０％は厳しく選抜することで、傍目には、試験レベルを高めている場合もあります。一方で、ＡＯ入試のために、教授がじきじきに公立高校まで出向き、生徒と個別面談を行い、選抜を行っている学校もあるといいます。

単なる定員確保の手段なのか、優秀な学生を集める手段なのか、学校の置かれている状況によって、ＡＯ入試実施の目的は、大きく異なっています。